臨給のカット１５％の回復は銀行自らの約束「収益良化時」

滋賀銀行従業員組合第115回定期大会

〒520-0041
滋賀県大津市浜町１－３８
滋賀銀行従業員組合
TEL　077-521-2775
FAX　077-525-5232
http://www.biwa.ne.jp/ffs/
e-mail:ffs@biwa.ne.jp

10月22日（木）大津市内において滋賀銀行従業員組合115回定期大会が開催されました。定期大会には構成員全員が出席し、日根野元委員長をはじめ多数の先輩組合員が参加されました。

また、来賓として金融労連近畿地協岡野議長、滋賀県労働組合総連合山元事務局長、日本共産党滋賀県委員会佐藤参議院予定候補から挨拶を受けました。

なお、定期大会終了後、年金者部会の総会が開催され組合員も参加しました。

定期大会は、車谷副委員長の開会宣言で始まり、議長に山崎特別執行委員を選出し進められました。

若者が運動の中心、広めよう組合の存在価値

中島委員長は挨拶のはじめに、多忙の中臨席していただいた来賓に謝辞を述べるとともに、参加された先輩組合員に対し、指導と協力を求めました。つぎに情勢の特徴に触れ、「戦争法問題の中心をなす立憲主義と民主主義は労働組合の根幹にかかわる問題である。また、この運動では、若者が中心になるという変化があり、その後も国民連合政府構想へと続いている。この情勢変化に確信を持ち、従業員組合の存在価値の再認識を広げる運動を進めたい」と述べました。

金融労働者のナショナルセンターの役割を

近畿地協岡野議長は、中島委員長の金融労連中央執行委員長就任後１年の活動を「金融機関の置かれた状況が厳しい状況の中、職場を牽引しながら、金融労連の先頭に立って奮闘していることを敬意もって評価する」と述べるとともに「金融労連結成10年目を迎え、社会的にも一目おかれる金融労働者のナショナルセンターとしての役割を果たすことが求められている」とし、組合運動の原点再認識、世帯交代、女性労働の問題にも言及しました。

雇用の流動化、派遣法改悪をやめさせよう

県労連山元事務局長は「今まさに秋闘の最中だ。今年は、戦争法廃止でストライキを打とう」と最初に呼びかけました。最賃施行について「滋賀では２桁18円アップの７６４円となったがＩＬＯのいう家族含めた生活できる賃金とはほど遠いし、公務の職場でも低賃金の契約労働は増加し問題になっていると公契約問題の重要性を指摘しました。安倍政権の進める雇用の流動化や派遣法改悪をやめさせようと訴えました。

戦争法廃止の一点で国民連合政府を

日本共産党の佐藤氏は、「19日安全法制が強行されたが、民主主義を踏みにじる暴挙は許せない。幅広い世代が立ち上がった闘いに押されて政党の共闘がすすんだ。憲法違反の戦争法はこのままにしておけない。戦争法廃止と閣議決定撤回の一点で、日本の政治に民主主義を取り戻すため、参議院選挙での選挙協力も含めて国民連合政府の提案をした。その実現に向け皆様とともに奮闘したい。」と決意を示されました。

今回の定期大会は相互に関連する内容もあり、すべての提案を行なった後、討論を行ないました。

第１号議案「２０１５年度運動方針について」は八軒執行委員が、１時間にわたり提案を行いました。第２号議案「２０１４年度決算について」「２０１５年度予算案」は谷特別執行委員が行ない、監査報告は荒井監査委員が行ないました。

引きつづいて中島委員長から第３号議案「上部団体役員派遣について」提案し、第４号議案「下期臨給要求決定について」は給対部の小原特別執行委員が提案しました。なお、「年末年始労働条件についての要求」について車谷副委員長が提案しました。

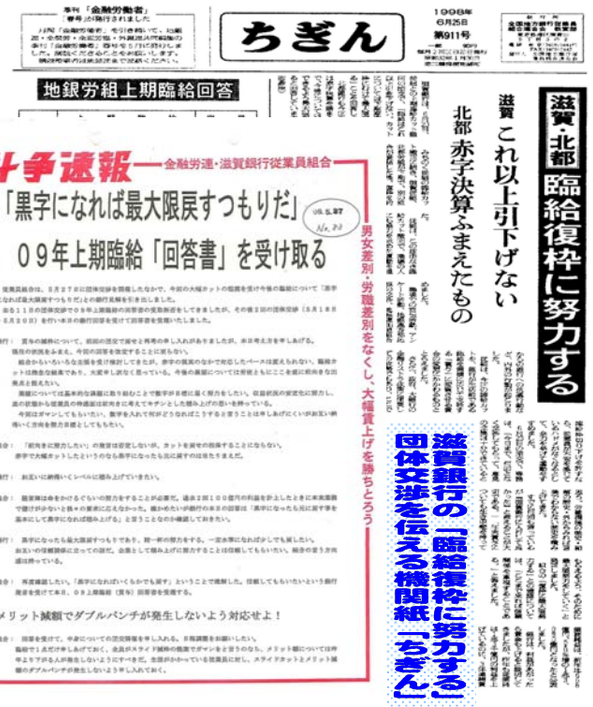
育児休業を理由にした定昇ダウンは問題

すべての提案を受け午後に討論が行われました。

はじめに出された意見は、春闘総括に述べられている「育児休業の取得により、定期昇給のダウンが最終資金量の引き下げになっています。子育てによる給料ダウンは問題であり、改善を目指したい。」とした点です。先輩組合員からも、女性活躍が言われる情勢に照らしても問題であり、しかも労使合意のない「人事部の内規による」とは大きな問題との意見が出されました。また、パート労働者の声として、特別報奨金など一時金の支給と就労時間調整（税法上年間所得上限）の苦労話が報告されました。

全議案が採決決定され、その後、中央委員会を開催し中闘を設置し「15％の復枠」めざし闘争指令０号と１号が発令が闘争委員長から発令されました。

「黒字になれば最大限戻すつもり」
「精一杯の努力をする」「一定水準になれば戻したい」
09年5月27日の団交の銀行発言を伝える「斗争速報」



年金者部会第十四回総会

10月22日午後3時より滋賀銀行従業員組合・年金者部会は第14回定期総会が開催されました。恒例のとおり従業員組合の定期大会と連動して開催されたもので、従組大会からの参加要請にも多数の方が応えていただきました。総会に参加された部会員は19名となりましたが、従組組合員等の参加も含め延23名となりました。

年金者部会総会は、谷事務局長の司会で、倉見世話人の挨拶で始められました。

無理をせず持てる力を発揮しよう

倉見氏は「今日は、従業員組合から大変な提案があったが、みんなでどのようこなしていくかを論議したいと思っている」と従組大会での提案に最初に触れられました。

次に情勢について「今世界的な難民問題、国内では憲法改悪などさまざまな問題があり、署名などもいろいろ回ってくるが、我々がどのように一歩踏み出していくのかが重要な時期になっている」と述べられました。次に自己の体調から高齢者の活動について、「無理をせず、持てる力を発揮しよう」と述べられ、最後に「今日は忌憚のない本音の議論をしよう」よ呼びかけられました。

総会議案に基づき谷事務局長より「経過報告と決算報告について」「新年度の取り組みと予算案について」、倉見世話人より「役員の改選について」提案がされ、すべての議案が決定されました。

なお、役員体制は、前年度の役員が全員留任されます。（部会長の和田一郎さんは体調不良で欠席されましたが、回復されています。）

高齢者が生きがいを持てるために

総会第2部として、世話人の古田雅二さんが年金問題について講演をされました。

講演の要旨は、社会保障の改悪、年金実質引き下げに抗する方策は、「皆が1日でも長生きをする事」そのための「長寿で大往生する為の5条件は？」、「生きがいの条件？」など木津川計さんの講演などを紹介しながらの話に、参加者も勉強になり、身につまされる話でした。

「100年安心プラン」が不安の源

次のテーマは「マクロ経済スライドとは？」では、2004年に導入された「100年安心プラン」が不安の源であり、2008年の後期高齢者医療保険が国民皆保険制度を破壊した経過を解き明かし、「年金はもらい過ぎか？」「年金制度維持と年金抑制、年金30年間支給引き下げ、年金積立金原資の問題（130兆円の内120兆円は厚生年金）」について話されました。

最後に、滋賀県46名の原告団の一人として闘っておられる「不服審査請求、年金裁判」について経過の報告と年金署名も100万筆目標達成への協力と決意を述べ講演を終わられました。

年金者部会総会が終わり会場を移して従業員組合と年金者部会の交流会が開催されました。

澤井書記長の司会で始められ、日根野さんが開会挨拶と乾杯の音頭をとられました。

日根野さんは「6月ゴルフのときに脳梗塞を患ったと申し上げたが、9月には胃潰瘍の治療をした。経過もよく、おお爺、爺、親、孫（日根野氏のひ孫）の四世代が元気に暮らしている。みなさんも身体に気をつけてがんばってください」と実感のこもった挨拶でした。

次回「ちぎんの会総会」来秋に鎌倉か江の島で

つぎに、昨年10月に大津市で開催された「ちぎんの会総会」で副会長に就任された古田さんから次の報告がされました。「去る9月30日と10月1日に東京でちぎんの会本部役員会が行われた。はじめに昨秋に滋賀で開催した総会に対する感謝が述べられた。会議では次回の総会について議論された。時期は来年（16年）秋頃の開催となるが、開催場所について岩手・青森・北海道などの意見も出たが、最終的に関東地域が集まる上でも適当であろうと言うことになった。具体的な場所として鎌倉、江の島が上がった。皆さんの意見も聞きたい」と述べられました。

最後に中島委員長から「先輩組合員の指導援助で運動の前進を図る」決意をこめた挨拶がされ閉会しました。

地域金融機関に働く労働者が仕事に誇りを持って働ける職場を！

金融労連・近畿地協定期大会

10月24日、京都市内において金融労連・近畿地協第10回定期大会が、代議員・役員・オブザーバー36人（委任状2人含む）が出席して開催されました。滋賀の関係では、車谷副委員長（近畿地協副議長）、八軒執行委員（近畿地協・幹事）、中島委員長（従組代議員）、小原特別執行委員（同）が参加しました。なお、山﨑氏は金融ユニオン滋賀の幹事として出席されました。

大会で挨拶をする岡野議長

定期大会は木村代議員（京都北都従組）と川口代議員（金融ユニオン）を議長に選出し進められ、全議案を可決決定しました。

討論では9名が発言され、当単組の中島委員長は「人事制度改定」について報告しました。

以下は大会で行われた岡野地協議長の挨拶要旨です。

国民無視の安倍政権の暴走

憲法全面否定の姿勢を軸に推し進める、安倍政権の暴走は今や「独裁政治」と言っても過言ではない。違憲立法が明らかな「戦争法案」への反対の声や運動は全国に広がり、若者を中心に自主的な行動が取り組まれた。その国民の声を無視し、9月19日「戦争法」は強行採決された。数の力と金に寄り添る与党議員の政治家としてのプライドはどこへ行ったのか。

国民目線の総活躍社会を！

先に放ったアベノミクスの「3本の矢」はすでに折れ、次の「3本の矢」で国民の気を引こうとしているが、本質を知り、広く知らせていくことが大切。また、「女性の活躍」が「1億総活躍社会」になった、それを言うのなら、国民目線で地に足の着いた政策が求められている。

財界、大企業のための「生涯ハケン」「労働法制」には様々な問題があり、「マイナンバー」も国民にはメリットはなく、金融機関での取引内容までひも付きになれば、その先が恐ろしくなる。TPPでの関税撤廃は、日本の農業を衰退させ、食糧自給率低下を招き、あらゆる産業への影響が大きい。

真の「女性活躍」推進を！

10月10日開催の「金融労連女性のつどい」には、20代から60代まで幅広い層の女性たちが参加された。

私たちが今まで言い続けてきた「女性が働き続けることのできる」という、根本的な問題の改善なくして真の意味での「女性の活躍」はない。女性管理職の割合引上げというけれど、従来の男性の働き方が可能な女性や男性目線での評価に値する女性だけの話だ。子育て、介護、家事労働など女性の仕事として押付けたままでの、形だけの制度だけや支援は結局女性の非正規雇用は増え続けるばかりだ。

最後に、地域経済を活性化させるには、地域金融機関がその役割を果たす事であり、私たち、地域金融機関の労働者が仕事に誇りを持って働く事である。そのために金融労連、各地協、単組の運動が重要となる。

なお、この定期大会で、議長に岡野子氏（池田泉州）、副議長に車谷薫（滋賀）・福井悦雄（京都北都）・松島照男（金ユニ大阪）・森廉始（金ユニきのくに）の4氏、事務局長に阿部正巳氏（京都北都）が選出されました。

大会で選出された新役員